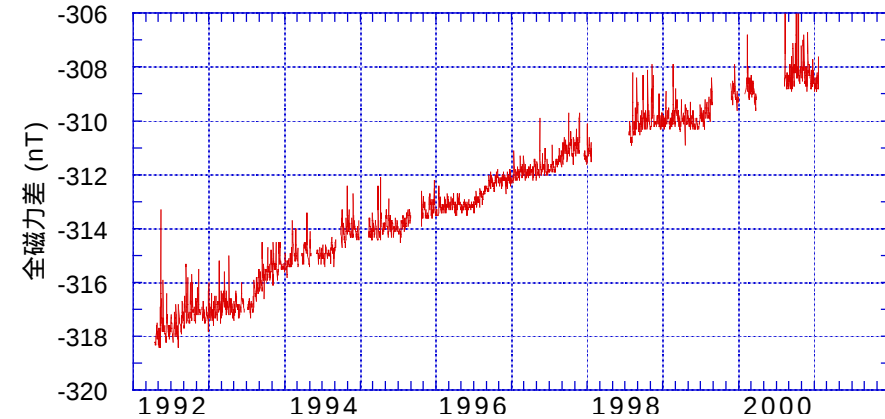
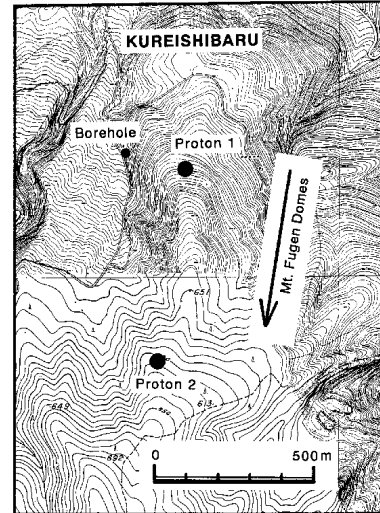
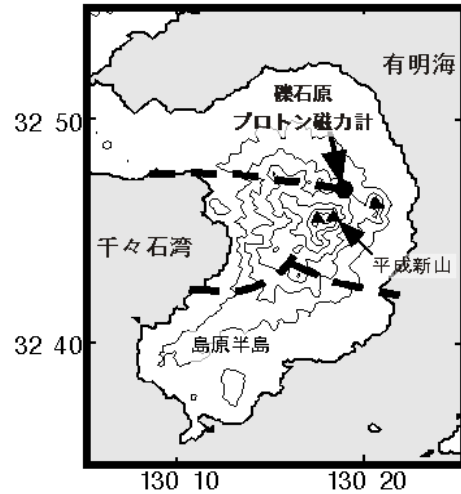


# 雲仙岳北麓における全磁力変化

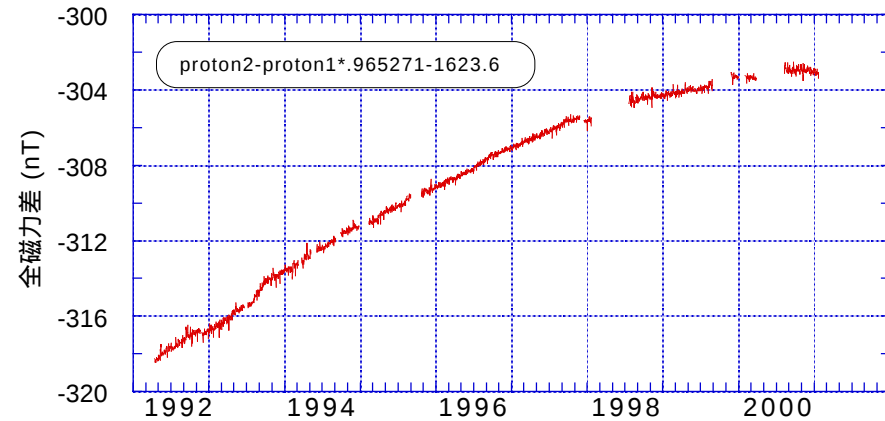
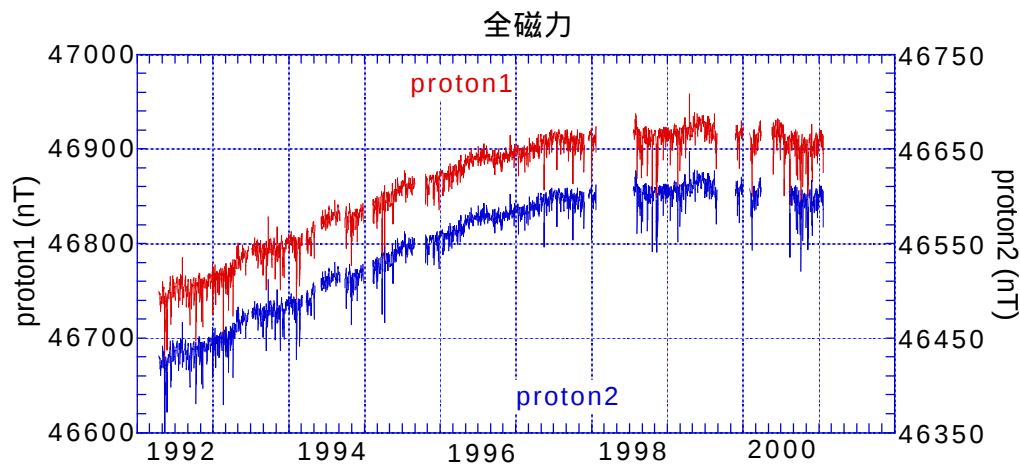
九州大学地震火山観測研究センター

全磁力差（単純差）



単純差では約1.2nT/yrの増加傾向が見られる．このうち両地点には1度05分の伏角の違いがあり，最近の九州地方の地磁気永年変化（垂直分力+30nT/yr）を考えると，約+0.4nT/yrは永年変化で説明できる．

全磁力差



2地点の全磁力差のばらつきが最小になるように1992年5,6月のデータを使用して係数を決定した．全磁力差の増加傾向（＝雲仙岳の消磁傾向）が頭打ちになった．